

コロナ禍における 対応と支援

～事業所アンケートと当事者の声を踏まえて～

武蔵野市地域自立協議会

コロナ対応部会

目次

- ・地域自立支援協議会コロナ対応部会とは
- ・活用方法
- ・回答施設の概要
- ・感染予防
- ・予防についてのまとめ
- ・～当事者の声①～
- ・コロナによる変化や影響
- ・感染対策
- ・コロナ禍で工夫してきたこと
- ・みんなが必要としていること
- ・対策や支援の事例
- ・伝えたいこと、考えてほしいこと
- ・～当事者の声②～
- ・アンケートの質問項目

地域自立支援協議会コロナ対応部会とは

- 武蔵野市地域自立支援協議会は地域の障害者福祉に関する課題等について協議し、障害者の自立した地域生活を支えるために、平成20年1月より設置され、親会議の元に専門部会が置かれる形で運営されています。新型コロナウイルス感染拡大という状況の中、より身近な課題に対処するため部会を再編し、令和3年4月にコロナ対応部会が発足しました。
- 新型コロナウイルス感染の拡大により、各事業所は感染症対策を行いながらのサービス提供という難しい課題に直面してきました。命を守るための感染症対策は当然重要なことですが、利用者の日常・生活の質を守るためにはサービス提供も途切れさせることはできません。
- 武蔵野市地域自立支援協議会コロナ対応部会は、新型コロナウイルス感染が拡大している状況の中で、withコロナにおける支援の在り方について実践例を集約して提示することをミッションとして活動してきました。

活用方法

- この冊子は新型コロナウイルス感染拡大の中で武蔵野市内の障害福祉事業所ではどのようなことが起きて、どのような対応をしてきたか、事業所向けに行ったアンケートの結果をまとめたものです。
- アンケートは市内の障害福祉事業所に回答していただき、全部で56件の回答を得ることができました。
- また当事者の方々へのコロナによる状況の変化についての聞き取りを行い、その内容をコラムとして掲載しました。
- コロナ禍にあっても、より良い支援を行うためにどのような工夫をしてきたのか、また当事者の方においてはどのような困りごとがありどのように対応してきたか、この冊子からヒントを得て、今後の取り組みに少しでも役立てていただければと願っています。

回答施設の概要

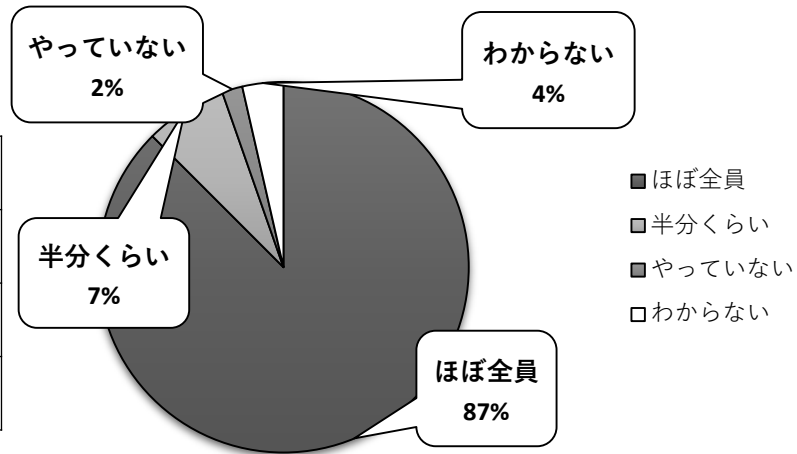
武蔵野市地域自立支援協議会	当事者部会
武蔵野市障害者福祉センター	
特定非営利活動法人KITARU	就労支援センターKITARU精神保健福祉士
社会福祉法人睦月会	LifeDesignつむぎ施設長
社会福祉法人武蔵野千川福祉会	吉祥寺泉寮支援員
	八幡作業所支援員
	八幡作業所支援員
	千川作業所支援員
	千川作業所支援員
	千川さくらんぼクラブ 所長
	千川おひさま幼児教室千川さくらっこクラブ 支援員
	井の頭はうす生活支援員
	ワークイン中町副所長
	ワークイン関前主任
	ななほしワークス副所長
	チャレンジャー支援員
	チャレンジャー支援員
	ワークイン関前支援員
社会福祉法人武蔵野	放課後等デイサービスパレット看護師
	武蔵野福祉作業所施設長
	武蔵野市障害者福祉センター所長(作業療法士)
	武蔵野市児童発達支援センターみどりのこども館相談部ハビット副館長
	居住支援ユニットリエゾン職員
	居住支援ユニットリエゾンせきまえハウス支援員
	居住支援ユニットリエゾングループホームかしの木北館支援員
	居住支援ユニットリエゾングループホームかしの木南館支援員
	わくらす武蔵野支援員
	ワークセンターけやき(食品事業) 就労支援員
	ワークセンターけやき(軽作業) 就労支援員
	みどりのこども館通園部支援員
	デイセンター山びこ支援員
	ジョブアシストいんくる管理者
	地域生活支援センタービーと相談支援専門員
	ワークセンター大地
社会福祉法人おおぞら会	サポートネットあすはコーディネーター・
	あすはK i d s 支援員
NPO法人ミュー	ワークショップMEW職業指導員
	ライフサポートMEWソーシャルワーカー
	ミューのいえ支援員
NPO法人ゆうあいセンター	みどり武蔵野
	ゆうあいセンター
(株) 浩仁堂	地域活動支援センターコット
	就労継続支援B型作業所カバーヌ

感染予防（アルコール消毒）

イ) ◆アルコールを使つての手の消毒

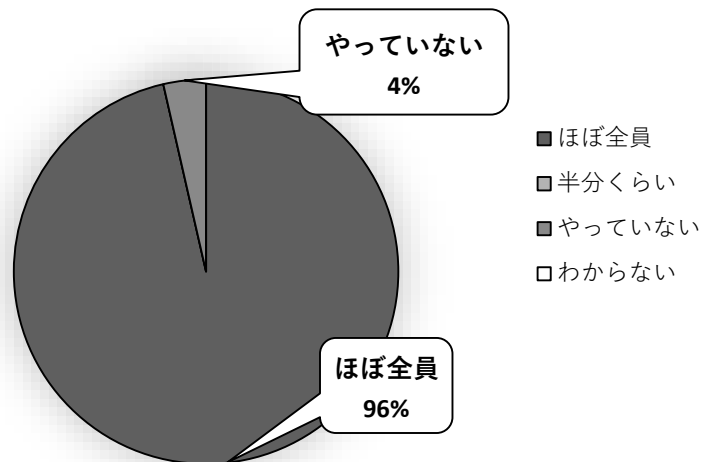
利用者 回答数 56

ほぼ全員	49	87.50%
半分くらい	4	7.14%
やっていない	1	1.79%
わからない	2	3.57%



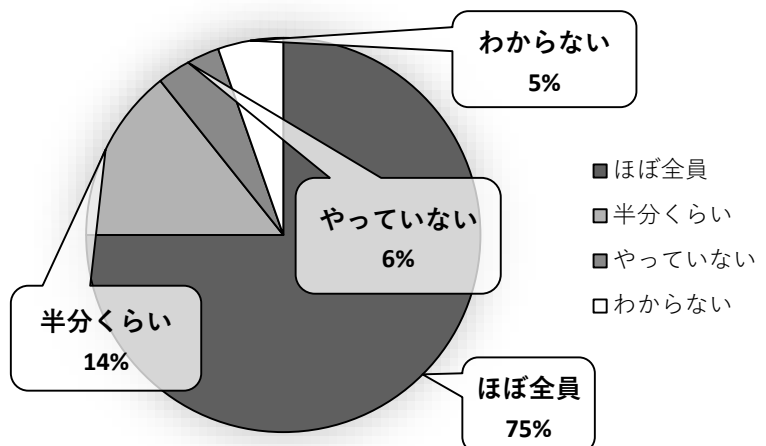
職員 回答数 56

ほぼ全員	54	96.43%
半分くらい	0	0.00%
やっていない	2	3.57%
わからない	0	0.00%



来訪者 回答数 56

ほぼ全員	42	75.00%
半分くらい	8	14.29%
やっていない	3	5.36%
わからない	3	5.36%

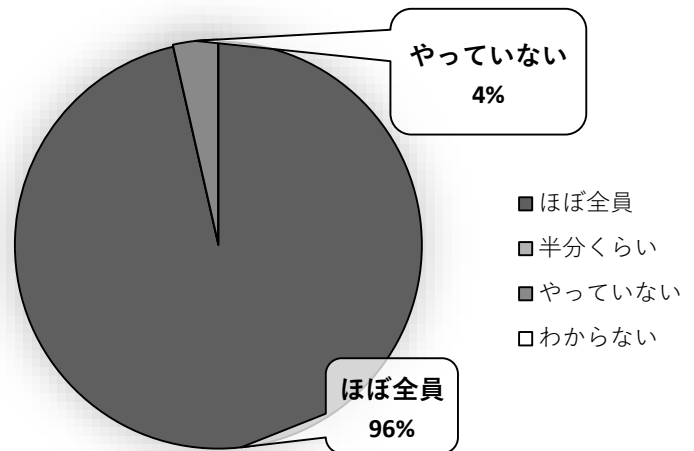


感染予防（毎日の検温）

□)◆事業所での毎日の検温

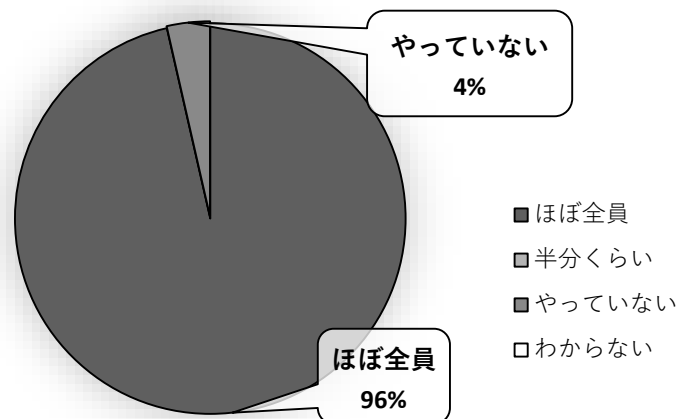
利用者 回答数 56

ほぼ全員	54	96.43%
半分くらい	0	0.00%
やっていない	0	0.00%
わからない	2	3.57%



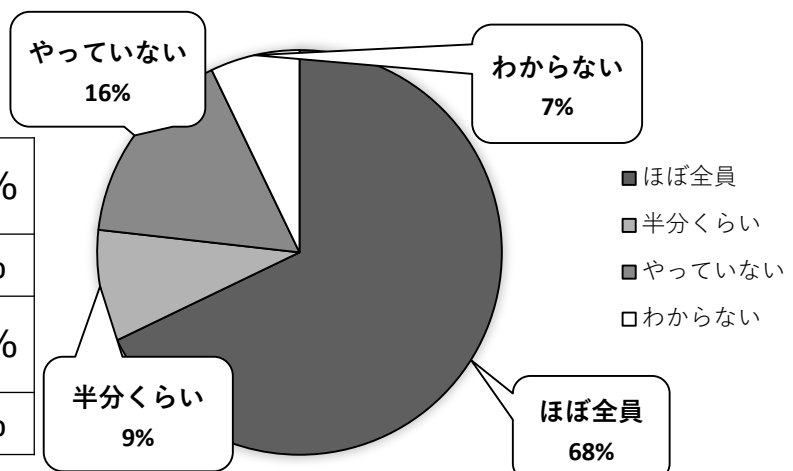
職員 回答数 56

ほぼ全員	45	80.36%
半分くらい	1	1.79%
やっていない	6	10.71%
わからない	4	7.14%



来訪者 回答数 56

ほぼ全員	38	67.86%
半分くらい	5	8.93%
やっていない	9	16.07%
わからない	4	7.14%

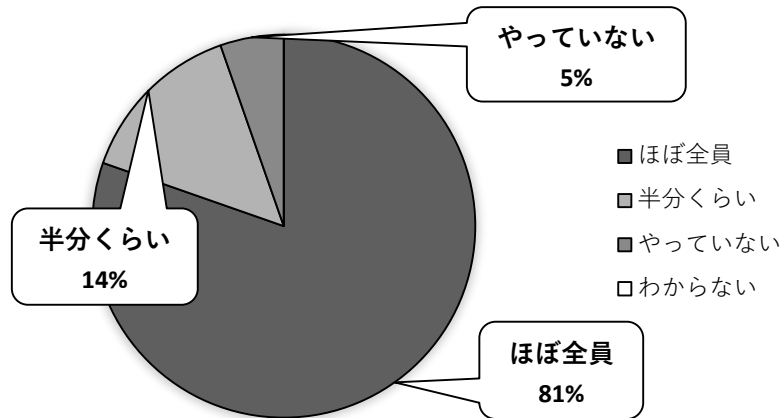


感染予防（不織布マスク）

ハ)◆不織布マスクの着用

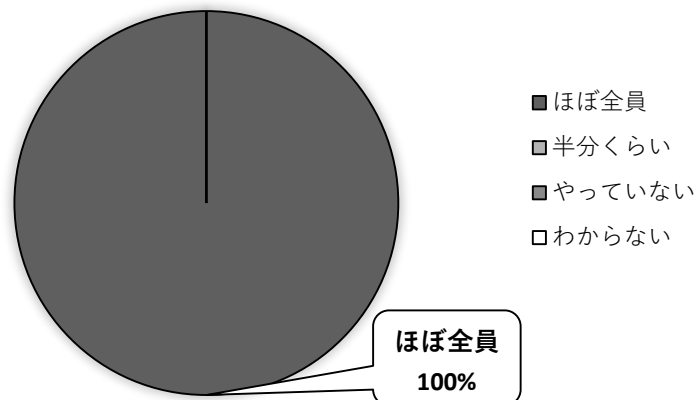
利用者 回答数 56

ほぼ全員	45	80.36%
半分くらい	8	14.29%
やっていない	3	5.36%
わからない	0	0.00%



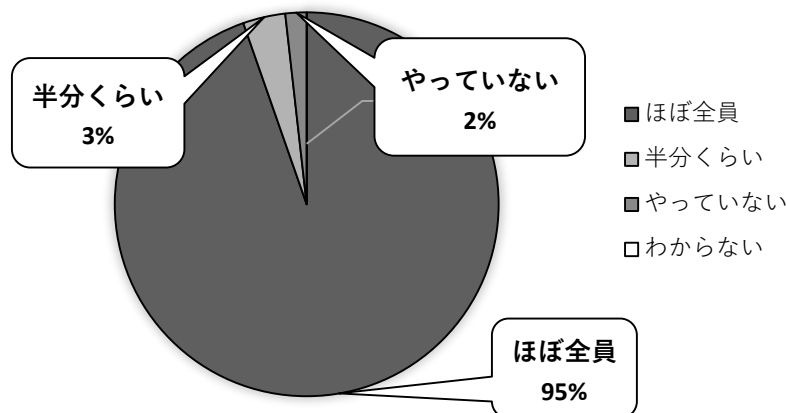
職員 回答数 56

ほぼ全員	56	100.00%
半分くらい	0	0.00%
やっていない	0	0.00%
わからない	0	0.00%



来訪者 回答数 56

ほぼ全員	53	94.64%
半分くらい	2	3.57%
やっていない	1	1.79%
わからない	0	0.00%



二) その他行っていること（回答数42件）

- 利用者

体調チェックシートを毎日記入

（検温、症状の有無）

うがい、手洗い、アルコール消毒

昼食場所や時間の分散、黙食

- 来訪者

名簿記入（検温、消毒、入退室時間）

- 環境

施設の消毒（道具、PC、デスク、ドアノブ、ロッカー、手すり、床）

換気

除菌スリッパの使用

アクリルパーテーション設置

- その他

携帯電話の紫外線消毒

市役所から支給されたマスク、手袋をガイド活動中のヘルパーへ配布し、必要に応じて使用

関係者以外は所内入室へのお断り

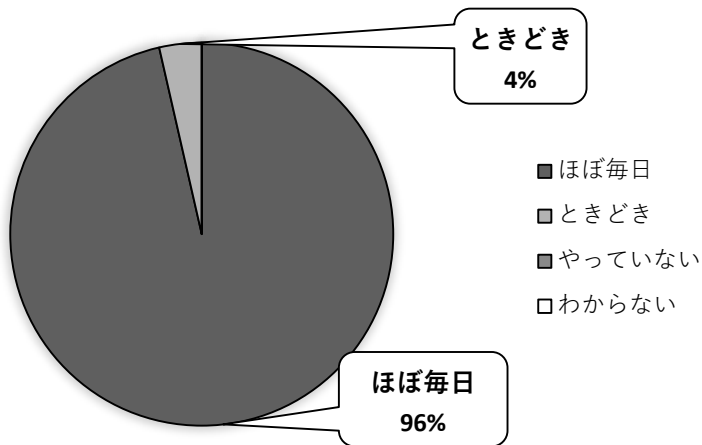
感染予防（活動中の環境）

木)◆換気・空気清浄

窓・扉の開放や換気扇で換気している

回答数 56

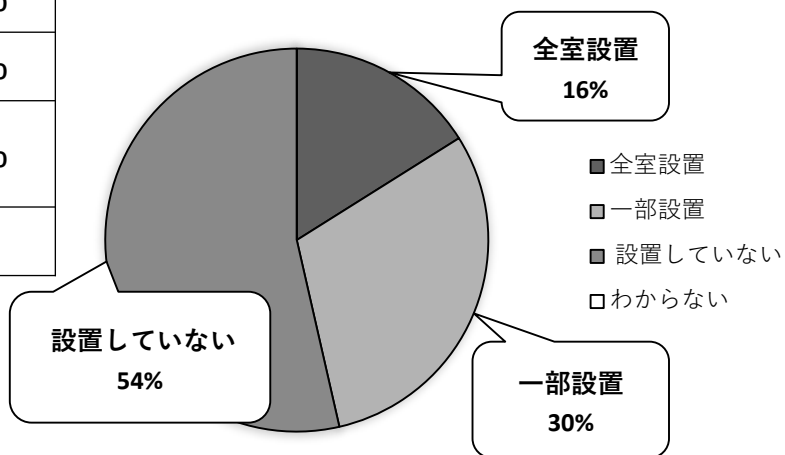
ほぼ毎日	54	96%
ときどき	2	4%
やっていない	0	0%
わからない	0	0%



空気清浄機・エアコン（ウィルス除去機能付き）の設置

回答数 56

全室設置	9	16%
一部設置	17	30%
設置していない	30	54%
わからない	0	0%

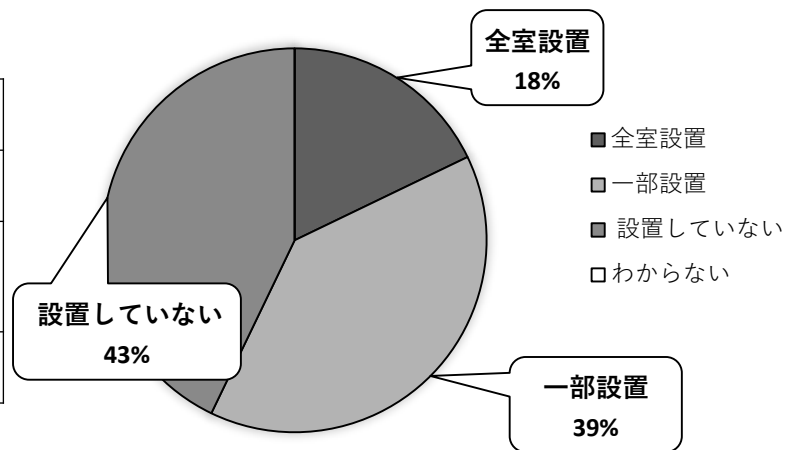


感染予防（活動中の環境）

事務机や会議机、車両の座席にアクリル板等のつい立による飛沫対策

回答数 56

全室設置	10	18%
一部設置	22	39%
設置していない	24	43%
わからない	0	0%

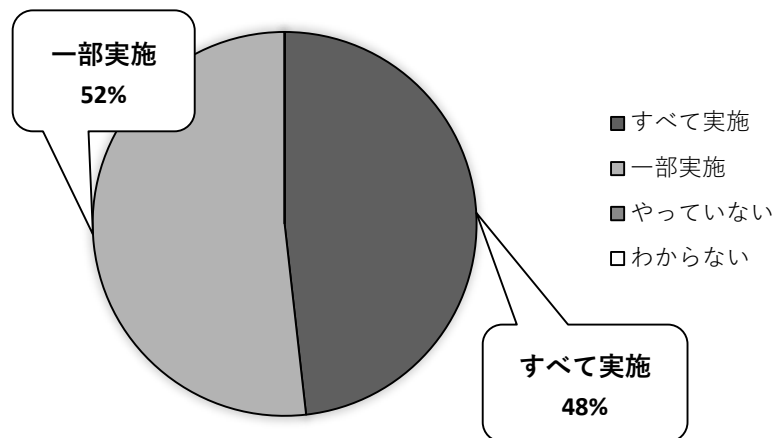


へ) ◆用具・機器の消毒

机、椅子、その他使用した用具等を消毒している

回答数 56

すべて実施	27	48%
一部実施	29	52%
やっていない	0	0%
わからない	0	0%



ト) その他行っていること（回答数49件）

- 食事、会議、作業などの場面では、密にならないように人数制限や距離をとれる配置とする
- 窓がない相談室では、机にビニールカーテンと換気用扇風機を設置
- 冬～春にかけて、加湿器使用
- 利用者さん同士のペアでの作業、ゲーム時には、利用者さんにもフェイスシールドの着用
- 送迎は、ユニット交差をしないように、ユニット毎で行う
- 1対1での食事介助や対面介助の場合、職員はフェイスシールドを着用
- 排泄介助時のディスポーザー手袋を使用
- プログラムの人数制限
- 居室での食事
- リビングの人数制限（グループホーム）
- イートイン席の減数、パーティション
- レジ周辺のレイアウト変更
- 注文時のオペレーション変更

チ) 予防全般の困っていること（回答数29件）

支援について

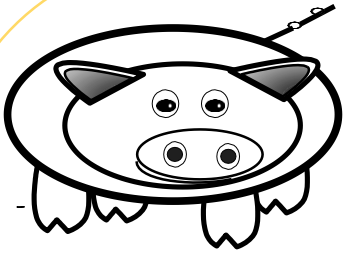
- ・マスク着用の難しさ
- ・身体接触もあり、感染リスクが高まる
- ・利用者さん同士のコミュニケーションが希薄になる
- ・食事や入浴などのマスクを着用しない場面もあり、感染予防徹底の難しさ
- ・物の共有を避けた上での保育が難しい

環境

- ・夏場の熱中対策（冷房使用）とコロナ対策（換気）の両立
- ・換気ができない、しにくい

その他

- ・感染に対する情報が日々変化をし、どの程度まで感染予防をすればよいのか迷う
- ・保健所の指導でも、対応が流動的
- ・マスクやワクチン不要との考えのある家庭に対しての支援
- ・マスク着用が習慣化し、熱中症の説明をしても、職員や利用者さんが外せず、心配をした
- ・移動支援は、外での活動の為、いつ、どこで感染するのかわからない。感染時のヘルパーへの補償マニュアルがない
- ・消毒等の人手、労力の確保
- ・ウィルスが見えない



予防についてのまとめ

- 基本的な「うがい、手洗い、検温、消毒」は、ほとんどの事業所が通年実施で定着している
- 来訪者にも基本的な予防対応が定着
- 環境面では、換気、設備等の消毒が定期的に行われるようになった
- 場所の人数制限や、アクリルパーテーション等を使用し、事業を継続

課題

- 予防により感染抑止への効果は感じられるが、一方で支援やコミュニケーションの課題がある
- 事業内容、支援対象者によっては、予防が難しい場面もあり、予防徹底の難しさがある
- そもそも予防対策の方法が、流動的であるため、社会の動きと実際の支援を一致させていくことの難しさ

当事者の声①

(2022年6月30日 当時)

聞き取りしたのは、オミクロン株（BA5）の感染が急拡大しつつあった時期です

- Aさんは、当時、市内の就労移行支援事業所で働かれていました。また、それまで別の事業所に通所されてきました。
- 「一人でいることが多くなり、眠れなくなった。昼夜逆転状態。医師に眠剤を出してほしいとお願いしたら、『これ以上（多くは）出せない』と言われた。体を動かしていないから夜眠くならない。やっと眠れたと思ったら、起きたら夕方だったということもある。」と話されていました。しかし、一方で「眠れなくてつらい時、自分の話を聞いてくれるだけでもありがたい。ワーカーに話すと『大変ですね』と言ってもらい、心が落ち着いた。」とも話されていました。
- 現在は、幸いセンターで一人も感染者が出ていないこともあり、週に3日ほど通所しているとのことでした。

当事者の声①

(2022年6月30日 当時)

2022年6月頃の様子を中心にお聞きした内容の概要です（敬称略）

- すでに3回目のワクチン接種を済ませ、日常的には、手洗い、マスクの着用を徹底している。特にマスクは外出の度に新しいものに替えている。感染には気をつけていて、体調不良があると発熱外来（かかりつけ医）に行き検査してもらった。これまで2回行ったが幸い陰性だった。持病で通院している医院では、感染者が出て1週間閉院したところもあった。
- コロナ感染が拡大して変わったところは、リモートワークをする人が増えて、自分が住んでいる隣室の人も部屋にすることが多くなり、（神経質になっているからか）「戸を閉める音がうるさい」「1日に5回も外出しているじゃないか」などと言われた。
- （2020年と違って、事業所に）週2, 3日通えている。友達や職員としゃべれるのがうれしい。みんなで「いつまで（コロナが）続くのだろうか」と言ったりしている。あと週3, 4回、実家に帰って片付けなどを手伝っている。

当事者の声①

(2022年6月30日 当時)

インタビュアーからの質問

「以前と違って随分外出できていますね？」

・（コロナが感染拡大して）3月まで事業所に通っていたが、通所してくるメンバーが少なくなって、職員も人手が足りなくて困っていた。やらなきゃならない作業もあるので、人手が足りない分、行けば時給のいい仕事ができる。最初は、午前中か午後のどちらか行っていたが、体がなれてきて1日行くこともあった。眠れない時もあったけど、そんな時は夜中眠らずに行ったこともあった。やはり、困っている時にはなんとかしたい（役に立ちたい）という気持ちになった。

・自分は、みんなとお酒を飲むのが好き（生きがい）で、最近はなんとか少人数でできるのでうれしい。コロナがなくなることはないと思う。でも、2, 3人での飲み会なら、（感染予防を徹底すれば）いいと思っている。みんなで会って話せるのは楽しい。なんのために働いているかってことだと思う。

・趣味の御朱印集めは、コロナになって以前のように行けなくなったが、都内など近場に一人で行くこともある。

当事者の声①

(2022年6月30日 当時)

- 最近、考えているのは、(就労移行支援事業所の)利用者を増やすこと。
- コロナ禍でも2人が就職できた。うれしい。ただ、就労支援センター（株式会社など）が就職できる人を集めることがあって、すぐに結果がない。
- スローライフじゃないけど、（利用者が）今できることを少しずつやって、何年か後には就職できるようになればと思っている。SNSを見て申し込んでくる人（利用者）もいる（ので応えていきたい）。

まとめ

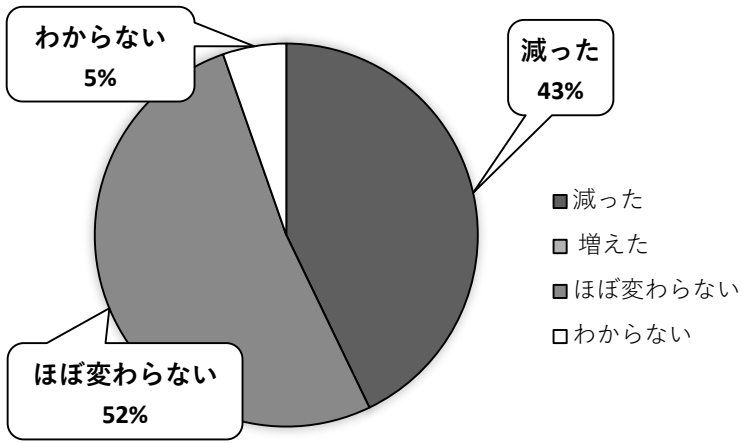
- 世の中全体がそうですが、「非常事態宣言」「まん延防止等重点措置」下での生活と違って、withコロナのあり様が少し変わってきた中で、利用者さんの生活も少しずつ変わってきたのかなという感想を持ちました。
- その変化をどのように捉え、今後に活かしていくのか。そこが問われているように思います。

コロナによる変化や影響

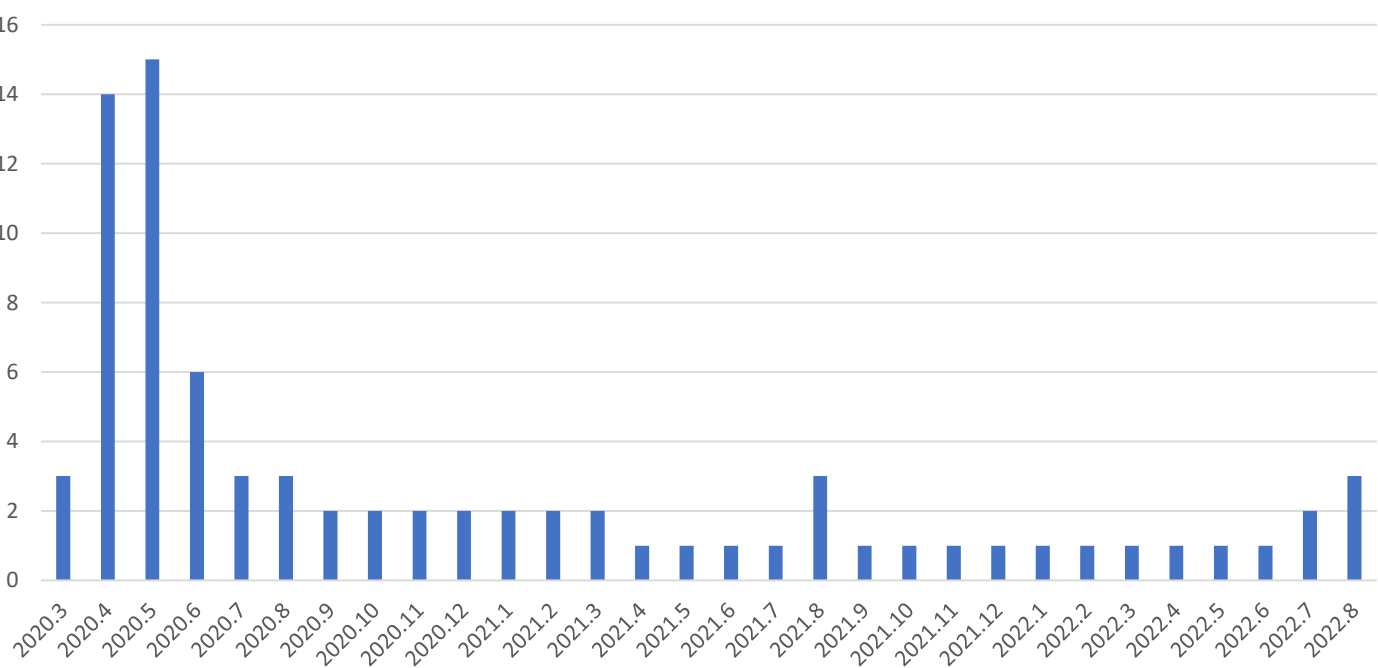
① 事業所が決めた活動時間数（コロナ前と比べて）

回答数 56

減った	24	43%
増えた	0	0%
ほぼ変わらない	29	52%
わからない	3	5%



活動時間数の変化が最も大きかった時期（32件の回答）

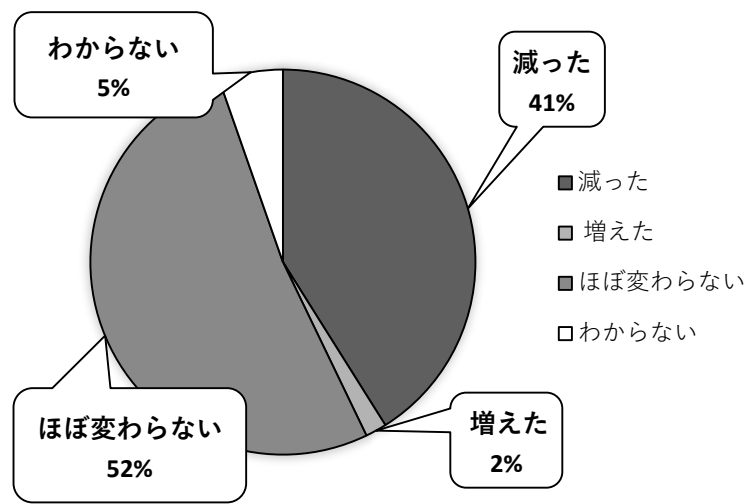


コロナによる変化や影響

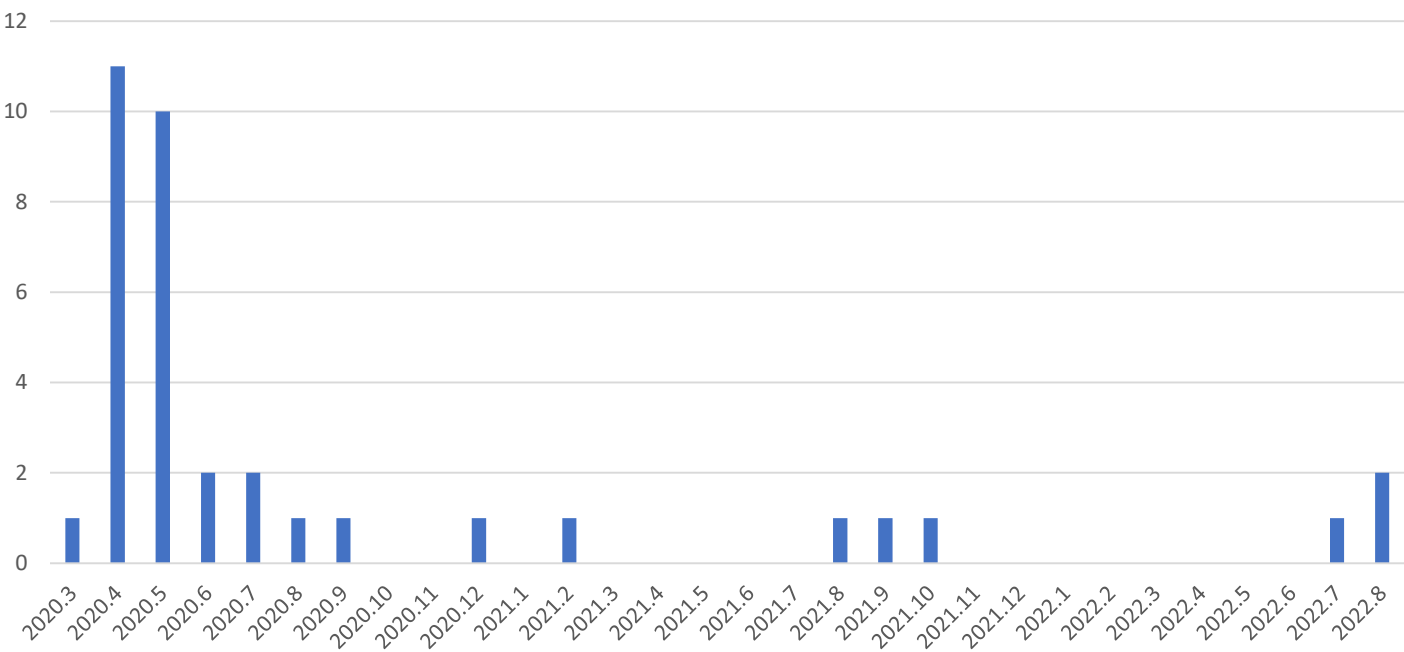
②利用人数（日平均）（コロナ前と比べて）
※いわゆる「在宅支援」としてカウントした分は含めません。

回答数 56

減った	23	41%
増えた	1	2%
ほぼ変わらない	29	52%
わからない	3	5%



利用者人数の変化が最も大きかった時期（24件の回答）

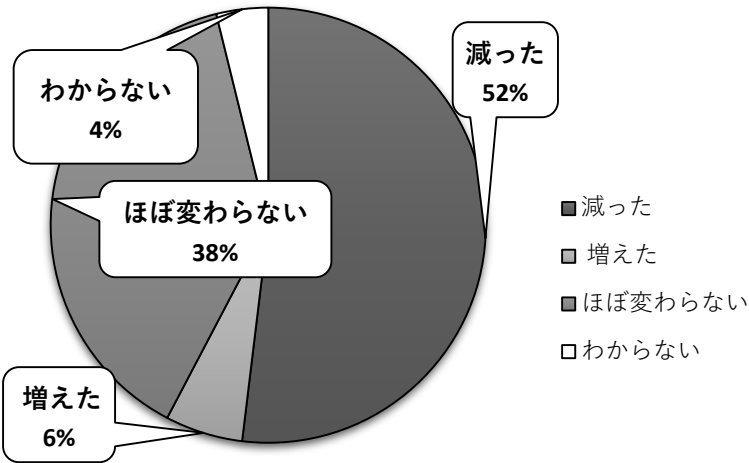


コロナによる変化や影響

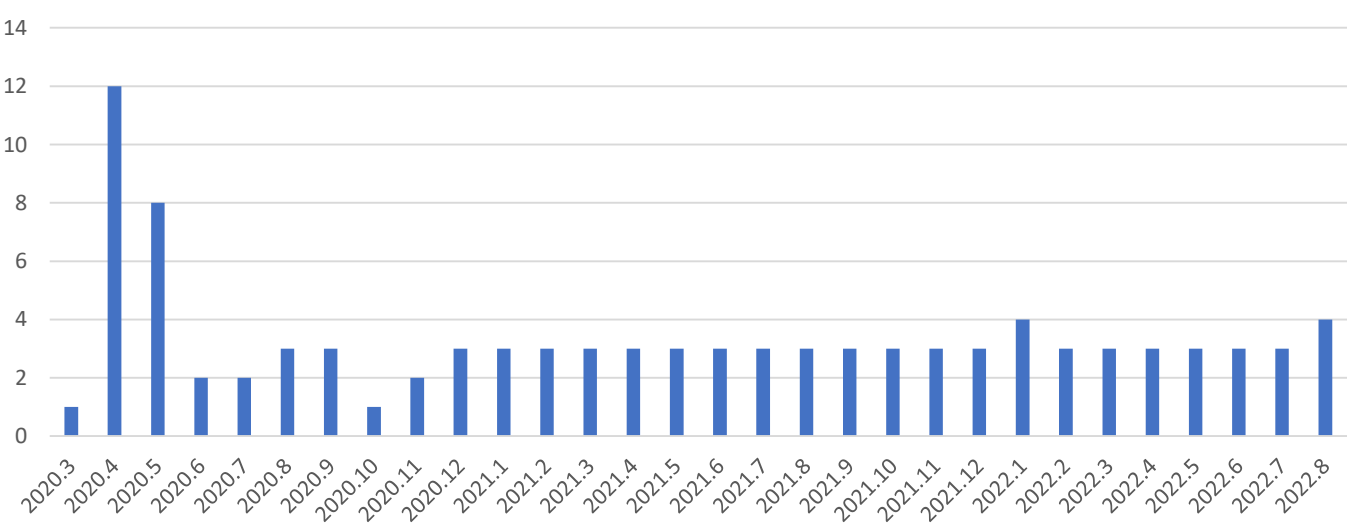
③活動場所（先）（コロナ前と比べて）

回答数 52

減った	27	52%
増えた	3	6%
ほぼ変わらない	20	38%
わからない	2	4%



活動場所（先）の変化が最も大きかった時期（29件の回答）



コロナによる変化や影響

事業所での活動の変化（回答数40件）

- 取引先からの受注が減り、収入が下がった
- 保育園の休園が相次ぎ、給食パンの納品が少なくなった
- 高齢施設への販売中止、イベントの出店中止
- 営業時間の短縮や宴会への食事提供中止
- レストラン、リサイクルショップ休業
- 外出活動ができなくなった
- 公園駐車場閉鎖や公園内遊具の利用不可で、活動先の確保が困難であった
- 国立や都立の施設が休館となり、移動支援の行先がなかった。休日での利用時間が大幅に短くなり利用時間が減った
- 同行援護（視覚障害）の利用は、透析等の必要な通院、食料品等の買い物のみとなり、激減した
- ショートステイの利用制限が厳しくなった

コロナによる変化や影響

事業所での活動の変化（回答数40件）

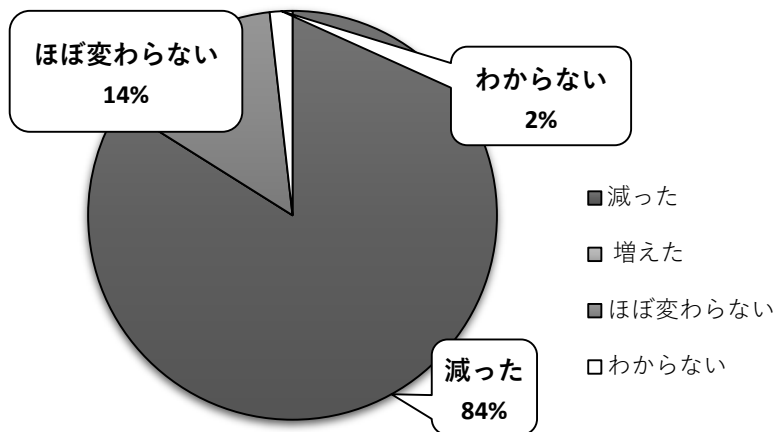
- 見学や利用体験の受け入れに制限がかかった状態のまま継続している
- 企業見学や職場体験実習先が減った
- 求人数の減少
- 外部講師によるプログラムの中止。運動量の低下にもつながった
- オンライン化が主流に
- 来所相談の自粛数が増加。オンライン相談や電話相談を開始
- 昼食づくりをおこない、オープンスペースで食べていたことを、お弁当づくりにして、持ち帰りとした
- 地域清掃では、ゴミに消毒液をかけてから、拾うようにした

コロナによる変化や影響

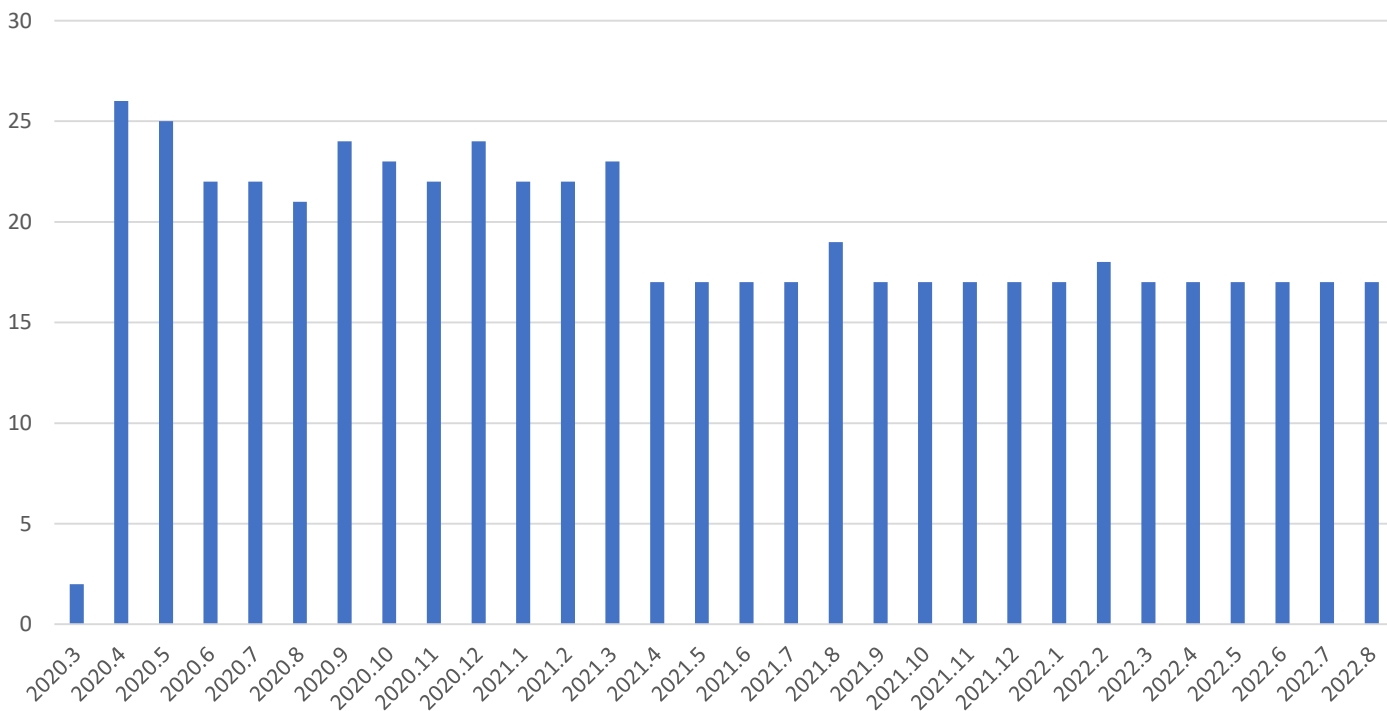
①行事等の回数や時間数（コロナ前と比べて）

回答数 56

減った	47	84%
増えた	0	0%
ほぼ変わらない	8	14%
わからない	1	2%



行事の回数が減った時期（41件の回答）

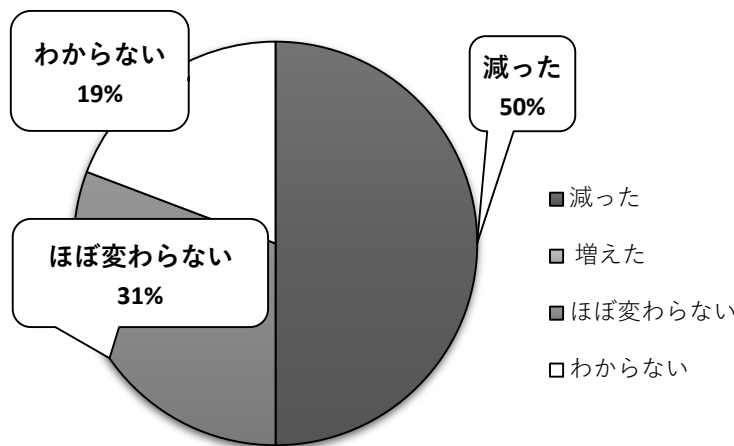


コロナによる変化や影響

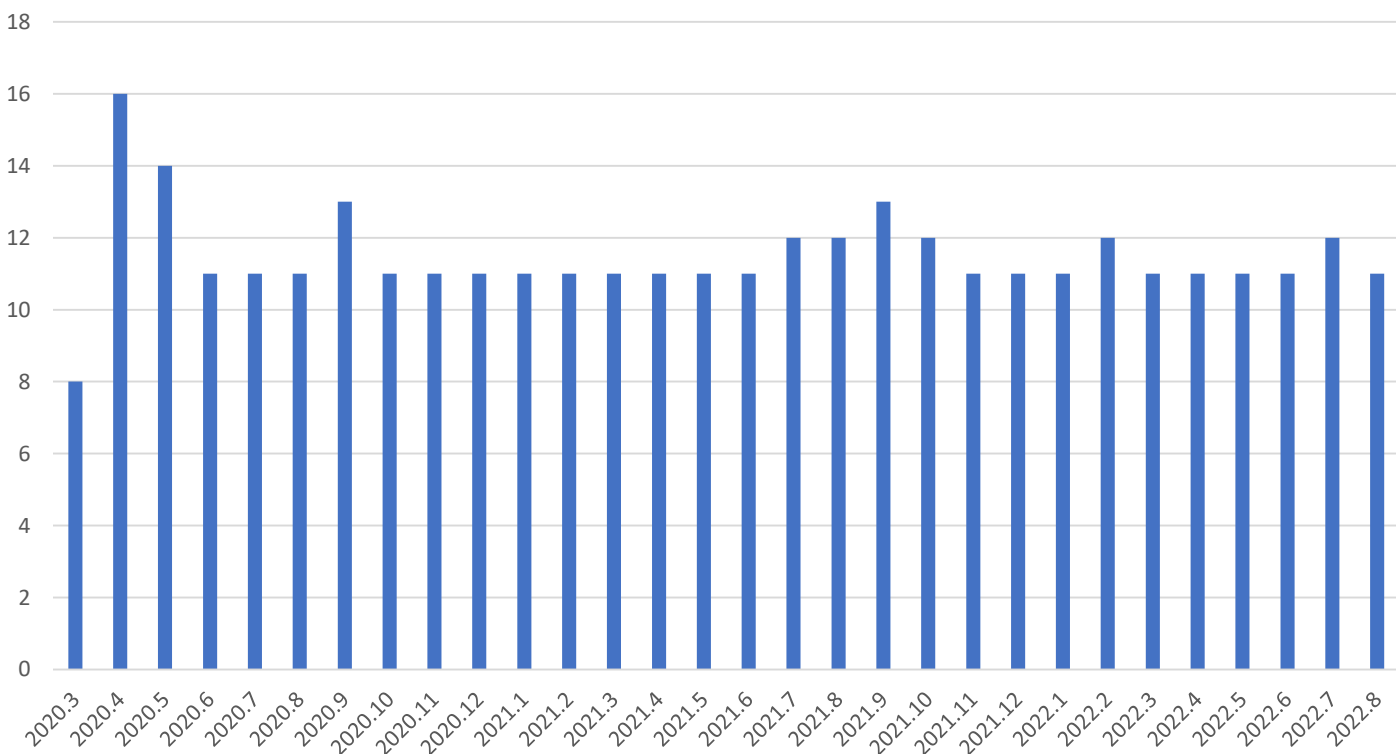
②行事等への参加人数（平均）（コロナ前と比べて）

回答数 52

減った	26	50%
増えた	0	0%
ほぼ変わらない	16	29%
わからない	10	18%



行事の参加人数が減った時期（25件の回答）

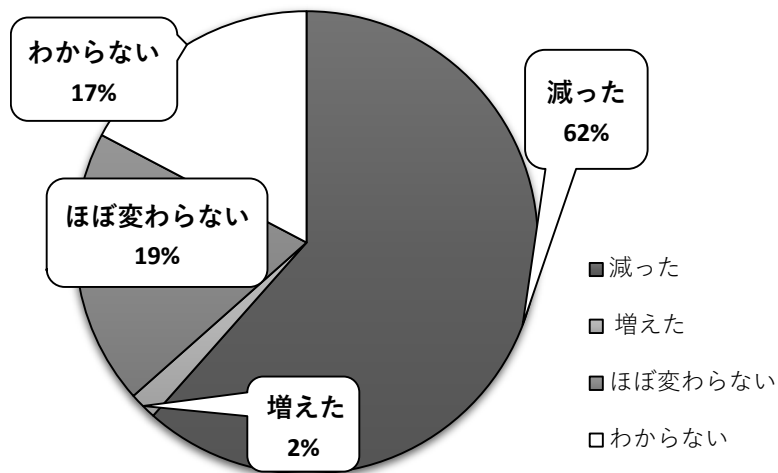


コロナによる変化や影響

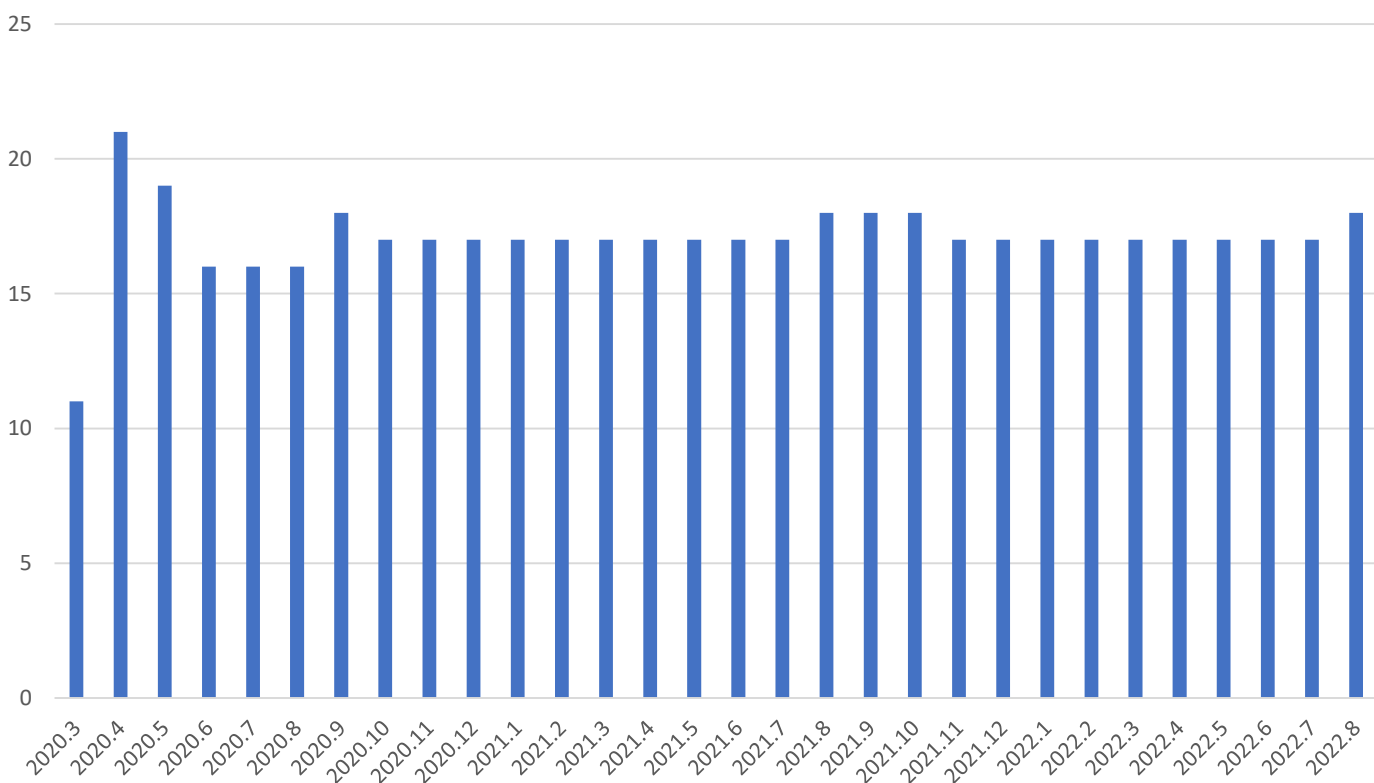
③行事等の場所（行き先）（コロナ前と比べて）

回答数 52

減った	32	62%
増えた	1	2%
ほぼ変わらない	10	19%
わからない	9	17%



行事等の場所が減った時期（29件の回答）



行事の変化（回答数41件）

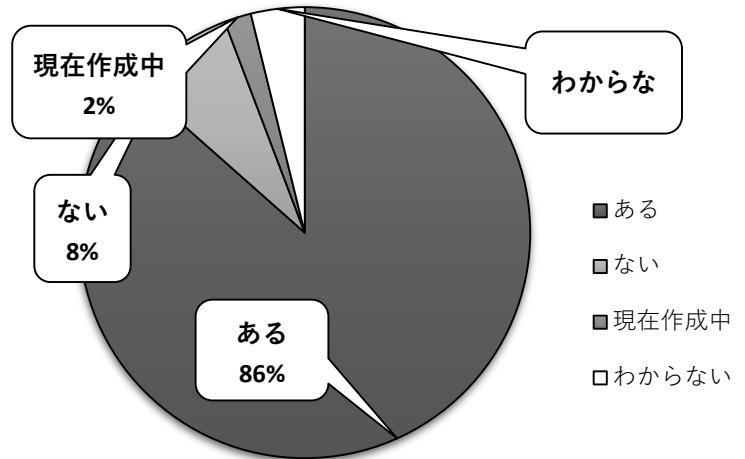
- 保護者会が開けず、お互いの意見、情報交換の場が減った
 - バスハイク、宿泊旅行、クラブ活動の中止
 - 利用者さん同士の交流が減少
 - 地域の子供たちとの交流が持てなかった
 - 地域との交流（餅つき、お祭り）が行えなくなった
 - 食事サービス提供が行えなかった
 - 利用者さん、ヘルパーさんとの行事も中止
 - ヘルパーミーティングは、ガイドという一人仕事の悩みなどを直接話せる貴重な場だが、リモートで一度開催をただけ
-
- 就職者の食事会を中止し、オンラインミーティングに変更したが、参加が少ない
 - 昼食づくりをお弁当づくりにしたことで、オープンスペース利用から遠ざかっていた利用者の利用が増えた
 - 会食をさけるため、午前だけのプログラムとした
 - 飲食を伴わない内容にしたり、場所の変更をして、くじ大会や親睦会を継続している

感染対策

ル)◆対応マニュアルはありますか？

回答数 52

ある	45	87%
ない	4	8%
現在作成中	1	2%
わからない	2	4%



ヲ) 対応で困ることはなんですか？

回答数 52

65.4%	濃厚接触者と思われる者も含めたPCR検査がすぐにできない
23.1%	誰にどういったことをどの程度伝えればよいのかが、はっきりしていない
7.7%	対応に困っている時に、どこに聞いたらよいか分からない
1.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都度、状況を法人本部に伝えて本部からの指示に従っている ・ 濃厚接触の定義が曖昧とも取れる ・ 感染者対応しながら、通常運営を維持しなければならないこと ・ 自宅に帰ることができない人の行き場がない ・ 発熱したりPCR検査を受けた者が出た時点で状況に関わらずユニット内全員が一律に通所できなくなり、日中の対応をしなければならないこと。また、入居者で陽性になった方の対応をする必要がある場合、設備も知識も不十分な中で対応しなければならないこと ・ ご家族に連絡がついても、仕事等ですぐに対応するのが困難な場合 ・ どこまでの方が濃厚接触にあたるかなど、不明瞭な所がある ・ 濃厚接触者や自宅待機などの考え方 ・ 保健所に連絡がつきにくい ・ 特になし ・ わからない

工夫してきたこと（回答数46件）

- 東京都の制度を利用してPCR検査キットを入手。事業所内で陽性者が出た場合に、迅速に検査を行えるようにした
- 抗原検査キットの常備
- 職員は週2回抗原検査や毎週PCR検査を実施した
- 対応マニュアルを作成し、全職員で共有。有症者が出た際の初動が早くなった
- 全職員に対してガウンテクニックだけではなく、環境消毒の方法など確認する場を設けた
- 利用者研修会を繰り返し行い、感染症の理解を深め、実際に手洗い指導も行い、感染予防の定着を図った
- ゴーグルやフェイスシールドを用いての食事介助、口腔ケアを実施
- 出入口に非接触型の検温、消毒機器を設置
- 表情が読み取れるように、透明マスクの使用
- 通所時の検温報告をすることで、利用者全員と一度は言葉を交わす機会ができた。また、体調を細かく把握できるようになった
- 体調確認の連絡を行うことで、家族と話す機会が増え、情報共有が図りやすくなった
- 日々の健康チェックなど基本的なことが日常的に行えることで、他の感染症予防にもつながっている

工夫してきたこと（回答数46件）

- 感染対策を実施することで、少しずつ行事やイベントに参加できるようになってきた
- コロナ禍でも対策を行いつつ仕事をするペースがつかめてきた
- 利用者さん同士の接触を最小限にすることで、ショートステイの利用を受けられるようになった
- オンラインシステムを活用し、活動の幅を広げることができた（面談、相談、会議、研修）
- 「マスクDEトーク」茶話会プログラムの実施
- 部屋を広く使い、換気を行いながら、プログラムを再開
- 余暇活動を、室内で毎月定期的に行えるように、工夫を凝らすようになった
- 夕食会の代わりに、週に1回お弁当を利用者さんに配っている
- 体温チェックや消毒について、職員間で方法を統一し、利用者さんの混乱につながらないように努めている
- 特別に何かを工夫しているわけではないが、利用者さん、ご家族の安定を継続するために、事業の目的を日々遂行している

みんなが必要としていること（回答数52件）

- 手軽で無料の検査体制
 - 迅速な検査の実施
 - 感染時の際のマニュアル
 - 感染拡大防止のための迅速な初期対応
 - 自宅、学校、事業所間での情報共有
 - 職員に感染が広がった時のリスクヘッジ
-
- 感染者が出たときのヘルパーの確保
 - ヘルパーへの休業補償。以前よりガイドヘルパーの件数は回復しつつあるが、外出制限時等の対応を考えなくてはならない
-
- 職員の確保、支援体制の維持
 - 職員の給料補償
-
- 障害のある方を優先的に受け入れてくれる医療機関が欲しい。通院先が見つからず家族が苦勞していた。検査を受けられるかどうかなどの情報が分かりすくなると良い
-
- マスクやワクチンに対する認識が、家族、職員、施設、市で異なり、その中でのより最適な施設運営、対応の在り方

みんなが必要としていること（回答数52件）

- 有症状者、陽性者、濃厚接触者が出た時に、すぐに対応出来るように、段階別の対応一覧表を作成した
- ガウン等、まず使用するものをコンテナに入れて、あらかじめ準備しておく
- 職員の欠勤が重なった時に、現場をどう回すかを、ある程度マニュアルで固めておく
- 職員が長期欠勤となった時に、出勤しているメンバーだけでも安定して事業が継続できるように、日頃からお互いの業務内容について把握しておく
- 職員のリモート勤務
- 長期化するコロナ禍における、身体や精神面のフォロー
- マスクや消毒液の無償提供（生活保護受給者も多いため、生活困窮につながるため）
- 濃厚接触者や無症状で自宅待機となる職員、自治体間の移動制限となった職員が、自宅で事務や記録ができるような工夫。通所、入所、相談事業のいずれであっても、一時的に人手が不足しても業務分担ができるのではないかな
- ホテル療養となった際に、1人では準備できない方へのフォロー
- 障害のある人や福祉施設職員が、すぐにPCR検査を受けられる機関があると良い。利用者や家族、職員が個々で通院や検査できる場所を探していて負担が大きい。検査までに時間を要し、解熱したときに検査を受けにくいという現状もある

対策や支援の事例（回答数33件）

- 余暇活動で、お店からランチをテイクアウトして楽しんでいる
- 歌が得意なボランティアを招いて歌を歌ってもらった。一緒に歌えないが、マラカスを振ったりして楽しんでいた
- カラオケが難しいが、好きな音楽を流してハミングするなど、違った楽しみを見つけていくのが大事
- 子どもキャンプを継続していた団体もいた。制約の中でも、開催できる方法を模索し、試行錯誤していくことも必要である
- 日帰りで風通しのよい場所でBBQをした
- コロナ禍により、在宅ワークが増え、就労が楽になったケースもある
- 利用者さん自身の感染症や感染対策について学ぶ機会を設けること
- 店頭に立つ作業が出来なくなり、利用者さんのモチベーションが下がりつつあるのを感じたため、提供する作業のバリエーションを増やしたことで、楽しく作業に取り組んでいる
- ドライブレクリエーションとして、タクシードライバーさんとのZoom交流会を行った

伝えたいこと、考えて欲しいこと（回答数33件）

- 精神障害の方は生活リズムを一定に保つことが大変です。コロナで生活パターンが変わり、いまだに苦しんでいる人もいます。少しずつ元に戻っているという「世間とのずれ」が、更に彼らを追い込むことがある現実
- ヘルパーやガイドが、利用者さん一人ひとりの生活を支えている。視覚障害のある方で、透析通院が週3日あり、命に直結するもので欠かせない。ソーシャルディスタンス、不要不急の外出を控えることの難しさや、必要な場合があることを伝えたい
- コロナ禍でも事業所を通常開所してくれて助かるという声もある一方で、利用を控える方も多い。こうした事態において、特別に事業所への補助を月額で行うなど、安定した運営ができるように配慮してほしい
- 利用者さんの工賃が大きく減った時期の補償
- 帰宅時の安全確保について、保護者会等を開催して意識の共有を図りたい
- 外出の制限がなされ、ストレスで情緒不安定になる事例があること
- マスク着用や手洗い、手指消毒など、長い時間かけて出来ているので、何か新しいことを行う時は、こちらが思っているよりも気長に待つ必要がある
- 他の事業所での感染対策や、どのような取り組みを行っているかなどを、武蔵野市で情報共有の場が必要である

当事者の声②

(2023年2月 当時)

- 新型コロナのワクチンがなかなか接種できず、予約を取るのも自分ではできないのでヘルパーに行ってもらうことにした。
- 最初の頃は市役所に問い合わせして臨時の接種会場を教えてもらったりもしたが、ドライブスルー方式なので車がないので諦めざるを得なかった。
- 大規模接種会場では受けることがなかなかできそうもないので、地元のかかりつけの医院でやってもらった。
- 新型コロナウイルスで悪いことばかりでもなかったようにも思う。ズームを使って大学の授業に出たり、臨時講師をやったこともある。ただ当事者同士が会うことがあまりなく、孤立していったように思う。
- これから先どうなるかわからないが。障害当事者が困ることが沢山出てくると思う。
- 例えば、目の見えない人はガイドヘルパーを入れることをためらうと思う。また、5類になると、今でも診てくれる医療機関があまりないのに、障がい者全般を診てくれる所は少なくなるように思う。

武蔵野市地域障害者自立支援協議会当事者専門部会
安東 博

アンケートの質問項目

事業所職員向け

武蔵野市地域自立支援協議会コロナ対応部会

「明日に活かすコロナ※」対応アンケート」

※「新型コロナウイルス」を以下「コロナ」と表記します。

次の質問にお答えください。

あなたの所属法人名 :

事業所名 :

職種 :

質問1. あなたの事業所で行っている新型コロナ感染予防対策についてお聞きします。

回答時点の現状について該当するものに○をつけてください。

【来所時の対応】

イ) ◆アルコールを使つての手の消毒

利用者 (ほぼ全員 ・ 半分くらい ・ やっていない ・ わからない)

職員 (ほぼ全員 ・ 半分くらい ・ やっていない ・ わからない)

来訪者 (ほぼ全員 ・ 半分くらい ・ やっていない ・ わからない)

ロ) ◆事業所での毎日の検温

利用者 (ほぼ全員 ・ 半分くらい ・ やっていない ・ わからない)

職員 (ほぼ全員 ・ 半分くらい ・ やっていない ・ わからない)

来訪者 (ほぼ全員 ・ 半分くらい ・ やっていない ・ わからない)

ハ) ◆不織布マスクの着用

利用者 (ほぼ全員 ・ 半分くらい ・ やっていない ・ わからない)

職員 (ほぼ全員 ・ 半分くらい ・ やっていない ・ わからない)

来訪者 (ほぼ全員 ・ 半分くらい ・ やっていない ・ わからない)

ニ) ◆その他、行っていることがあればお書きください。

(例: 来訪者には名簿記入をお願いしている。)

アンケートの質問項目

事業所職員向け

武蔵野市地域自立支援協議会コロナ対応部会

【活動中の環境】（室内、送迎車両など）

ホ) ◆換気・空気清浄

窓・扉の開放や換気扇で換気している

（ ほぼ毎日 ・ ときどき ・ やっていない ・ わからない ）

空気清浄機・エアコン（ウィルス除去機能付き）の設置

（ 全室設置 ・ 一部設置 ・ 設置していない ・ わからない ）

事務机や会議机、車両の座席にアクリル板等のつい立による飛沫対策

（ 全部に設置 ・ 一部設置 ・ 設置していない ・ わからない ）

ヘ) ◆用具・機器の消毒

机、椅子、その他使用した用具等を消毒している。

（ すべて消毒している ・ 一部消毒している ・ やっていない ・ わからない ）

ト) ◆その他、行っていることがあればお書きください。

（例：密にならないように、座席を空けて座っている。）

[]

チ) ◆感染予防全般に関して困っていることがあればお書きください。

[]

質問2. コロナの感染が拡大して以降、あなたの事業所で、これまで行ってきた支援や
今現在行っている支援についてお聞きします。以下の質問にお答えください。

【日常活動】

リ) ◆最初にコロナの感染拡大が発生した 2020 年 4 月以降これまでに、日常活動に変化はありましたか？それぞれの項目について該当するものに○をつけてください。また、変化が大きかった時期はいつ頃ですか？

① 事業所が決めた活動時間数

（ コロナ前と比べて減った ・ 増えた ・ ほぼ変わらない ・ わからない ）

「減った」「増えた」に○をつけた方へ

変化が最も大きかった時期は、いつ頃ですか？ 年 月頃

アンケートの質問項目

事業所職員向け

武蔵野市地域自立支援協議会コロナ対応部会

② 利用人数（日平均） ※いわゆる「在宅支援」としてカウントした分は含めません。

（ コロナ前と比べて減った ・ 増えた ・ ほぼ変わらない ・ わからない ）

「減った」「増えた」に○をつけた方へ

変化が最も大きかった時期は、いつ頃ですか？ 年 月頃

③ 活動場所（先）

（ コロナ前と比べて減った ・ 増えた ・ ほぼ変わらない ・ わからない ）

「減った」「増えた」に○をつけた方へ

変化が最も大きかった時期は、いつ頃ですか？ 年 月頃

その他事業所の活動で変化があったことがあればお書きください。（その時期も）

例）販売先に行けなくなり、売上がかなり減った。2020年8月頃

【行事等】

ヌ) ◆コロナ感染拡大前に行っていた行事等に変化はありましたか？それぞれの項目について
該当するものに○をつけてください。また、最も変化が大きかった時期はいつ頃ですか？

① 行事等の回数や時間数

（ コロナ前と比べて減った ・ 増えた ・ ほぼ変わらない ・ わからない ）

「減った」「増えた」に○をつけた方へ

それはいつ頃ですか？ 年 月頃

② 行事等への参加人数（平均）

（ コロナ前と比べて減った ・ 増えた ・ ほぼ変わらない ・ わからない ）

「減った」「増えた」に○をつけた方へ

それはいつ頃ですか？ 年 月頃

③ 行事等の場所（行き先）

（ コロナ前と比べて減った ・ 増えた ・ ほぼ変わらない ・ わからない ）

「減った」「増えた」に○をつけた方へ

それはいつ頃ですか？ 年 月頃

アンケートの質問項目

事業所職員向け

武蔵野市地域自立支援協議会コロナ対応部会

行事等の変化があった具体的内容をお書きください。(その時期も)

例) 食事会が行えなくなり、何気ない相談を受けられなくなった。2020年9月頃

質問3. コロナに感染した者や濃厚接触者(可能性が高い者を含む)が出た時の対応についてお聞きします。該当するものに○をつけてください。

ル) ◆対応マニュアルはありますか？

(有る ・ ない ・ 現在作成中 ・ わからない)

ヲ) ◆対応で困ることはなんですか？該当するものすべてに☑を入れてください。

- ☐ 濃厚接触者と思われる者も含めた PCR 検査がすぐにできないでいる。
- ☐ 誰にどういったことをどの程度伝えればよいかははっきりしていない。
- ☐ 対応に困っている時に、どこに聞いたらよいか分からない。
- ☐ その他 ()

質問4. コロナ感染拡大が長期化する中で、できるようになってきたこと、工夫してきたことはありますか？事例を参考にして、あればお書きください。

事例) ・表情が読み取れるように透明マスクを使うようになった。

・感染の有無を日常的につかむために、抗原検査を行うようになった。

質問5. コロナ感染拡大が今後も続いた場合に、必要と思われることはなんですか？

事例を参考にして、あればお書きください。

事例) ・情報の共有 ・手軽で無料の検査の実施 ・職員の雇用の確保

・感染者が出た時のマニュアル

アンケートの質問項目

事業所職員向け

武蔵野市地域自立支援協議会コロナ対応部会

質問6. この間の感染症対策や利用者支援に係る事例で、是非周りの人たちに伝えたいことや考えてほしいことはありますか？ 事例の具体的内容や伝えたいと思う理由をお書きください。

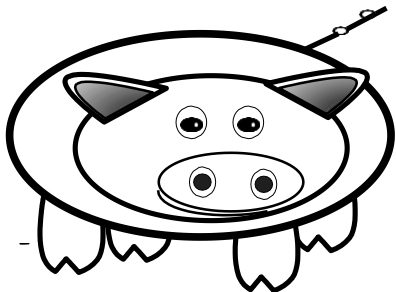
※概要で結構です。必要な場合は、聞き取りさせていただきます。

例)・例年旅行に行っているが、コロナで行けなくなったので、観光バスの運転手とリモートで、楽しかった旅先のことを交流した。

・泊りの旅行は無理だったが、日帰り旅行を企画した。いろいろ批判も出るかなと思ったが参加した利用者の人は、「とても楽しかった」と言ってくれた。実施するかどうかの判断が難しいと思うがやってよかったと思った。

以上です。ご協力ありがとうございました。

5



アンケートにご協力頂いた皆さま、
ありがとうございました！

